

## 令和3年度新城市市長選挙立候補予定者公開政策討論会（第2回）

令和3年10月7日（木）午後7時から  
新城市勤労青少年ホーム軽運動場

開 会 午後7時00分

○司会者 皆さん、こんばんは。

ただいまから、令和3年度新城市市長選挙立候補予定者公開政策討論会を開催します。

私は本日の司会進行を務めます、実行委員会の田村友宏と申します。よろしくお願いいたします。

本日の公開政策討論会は第2回目です。前回もお伝えしましたが、新型コロナウイルス感染症への対策のため無観客開催とし、テレビの放送及びYouTube新城市公式チャンネル、新城市ホームページ内の公開政策討論会のページでの配信としています。

公開政策討論会は、市民の皆さんに新城市の課題や現状について知っていただき、それに対する立候補予定者の政策や考え、人となりを知っていただくことを目的としています。

その補足資料として、立候補予定者のお二人には、本日のテーマに関する政策シートを作成していただき、新城市のホームページに掲載しています。

御覧になれる方は、「新城市 公開政策討論会」で検索して、「視聴方法」のページを御覧ください。討論を聞きながら、あるいは討論の終了後の参考に御覧ください。

本討論会の公正中立な運営のため、2つのルールを設けています。

1つ目は、発言時間です。設定された時間内で収まるよう簡潔に話をしてください。

発言中の時間経過については、時間表示ボードでお知らせし、時間を超過した場合には、必要に応じてベルを鳴らします。

2つ目は、発言内容です。公開政策討論会は、選挙活動ではなく政治活動ですので、投票を依頼する発言など公職選挙法に抵触する言動はしないでください。

なお、発言の順番についても公正を期すため、事前にくじびきにより決定しております。では、以上を踏まえて討論会を開始していきます。

まず、前回同様自己紹介をしていただきます。自己紹介については、立候補予定者の人となりを感じていただくため、実行委員会で質問を用意しました。

今回は、オリンピック、パラリンピックについて質問させていただきましたが、今回の質問です。コロナ禍により、おうち時間というものがとりだたされ、どう過ごしていたか、どう楽しく過ごすかということがピックアップされました。両候補者の方は、コロナ禍、おうち時間をどう過ごされたか。また、新しく何か始められたことがあれば、それも踏まえて、自己紹介をお願いいたします。

発言順は下江さん、白井さんの順で、発言時間は1人3分です。

それでは、下江さんお願いします。

○下江洋行氏 こんばんは、下江洋行です。私は昭和40年生まれの56歳です。住まいは大野区でありまして、84歳になります両親2人と、そして妻と妹と5人で暮らしております。

私の経歴ですけれども、学生時代は4年間京都で過ごしまして、大学を卒業した後に、6年間東京で建設会社に勤めました。そして、実家が自営業を営んでおりますので、家に家業を継ぐために帰ってまいりました。そして、平成21年から市議会議員に最初に当選させていただきました。3期役12年間務めさせていただきました。

私の趣味は、高校時代に部活動でのめり込んだラグビーです。といいましても、プレーヤーではなく、もっぱらラグビー観戦ということでもありますけれども、今は2年後のフランス大会ラグビーワールドカップを心待ちにしております。

それから、コロナ禍、おうち時間をどのように過ごしたかという質問がありましたけれども、体が動かすことが好きですので、家の中で閉じこもっていることなく、私の住まいの周りには、野山に囲まれて大変自然豊かなと

こですので、ちょっとしたウオーキングや山歩きそうしたこと、コロナ禍以前よりは、多くあったかなというふうに思いますし、また、私は家業が旅館業でしたので、調理師の資格を持っております。家で焼きそばを作ったり、焼きうどんを作ったり、そんなに大したものには作れないのですけれども、ふだんやらない料理なんかも、コロナ禍では少しよくやったかなというふうに思います。

母親にも父親にも、焼きそばは大変好評で毎回同じ味ではなくて、いろんな中華風であるとか、和風であるとか、洋風であるとか、いろんな味付けの料理をしました。

コロナ禍、何かと気分転換が必要だなと思いましたので、家の中でも楽しく過ごせること、そんな時間を自分なりに考えて過ごしたと思います。

○司会者 次に、白井さん、お願いします。

○白井倫啓氏 こんばんは。

白井倫啓です。現在64歳になりました。市議会議員になったのが42歳ですので、若い、若いと思っているうちに高齢者の仲間入りも一歩手前になっております。生まれは新城市杉山、育ちも杉山です。地元の千郷小学校、中学校を卒業して、新城東高校を卒業し、三重大学に行きまして、三重県は田舎だったものですから、あまりこの新城と環境が変わらんかなというように感じもしましたが楽しい学生生活を過ごしました。それから、19年、民間企業の会社に勤めました。その会社は機械設計でしたので、小さいころからの機械技術者になりたいなという、その夢を実現できていたはずなのですが、なぜか新城市政に関わりたいたいということで、19年間勤めて、新城市政に関わりだしました。

新城市は非常にいいところがあります。観光、歴史、自然を生かせばこの新城市というのは、いろんなことができるのかなというふうには思っています、市議会議員をやる中で、行き着いたのは、農業を何とかすれば、もう

だめだだめだと思われている農業ですが、山も同じような状況ですが、新城でこの資源を外してしまうと、持続可能なまちにならないのではないかという思いを強く持つようになりまして、農業を仲間とともに続けています。

コロナ禍の過ごし方にもつながりますが、農業というのは、密状態ではありませんので、ほとんど生活は変わっていませんでした。朝起きて収穫をし、食事をし、また、農作業を行うという。4年間に市長選に挑戦して、穂積さんに新城市政を任せたといいところから、農業にもうかけようというふうに思って、この4年間は農作業に明け暮れていましたので、農業を自分自身でも、農業でいけば何とかこのまちは変わるではないかという実感を持った4年間だったかなと思います。なぜか、また新城市に関わってみたいという思いになっています。

○司会者 次に、本日のテーマである「人が集まる活力あるまちづくりについて」、新城市の現状を皆さんと共有していきたいと思えます。映し出された映像を御覧ください。

まずは、商工関連の情報です。上のグラフは、製造品出荷額等とその従業者数の推移です。製造品出荷額等については、令和2年には少し下がりましたが、平成29年の2820億円から上昇傾向にあり、3273億円になっています。製造業の従業者数は、平成29年以降上昇を続け、令和2年は7865人となっています。下のグラフは、製造品出荷額の令和2年分の内訳です。ゴム製品がダントツで高い約1000億円、次いで、プラスチックが約460億円、生産用機械が約400億円となっています。

続いて農業関連の情報です。

左上は農業産出額のグラフです。80億円前後で推移していましたが、令和元年には59億円となっています。右上は荒廃農地の発生状況を表したグラフです。荒廃農地が田畑ともに毎年増加しており、令和元年度には合

わせて700ヘクタールを超えています。左下は、農業経営体数のグラフです。令和2年には1,261となっており、平成22年の約1,800からすると3分の2近くまで減少しています。右下のグラフは、新規就農者の人数です。平成26年は11人で多いですが、その後は5人前後です。

次は、林業関連の情報です。

一番上のグラフは年間30日以上林業に従事した林業従事者数の推移です。100人前後となっています。2番目のグラフは素材生産量の推移です。平成25年以降2万立方メートル前後で推移していましたが、令和元年には約1万5,600立方メートルに減少しています。3番目のグラフは、間伐実施面積の推移です。集計方法が変わったこともあり、令和元年度には、平成25年度の半分近い584ヘクタールまで減っています。

次は観光関連の情報です。

左のグラフは、新城インター開通前後の入込客数の推移です。平成24年から平成26年までの平均が、約196万人でしたが、開通以降の平成27年から平成29年までの平均は、約331万人と約69%増加しています。右のグラフは、新城インター開通後の宿泊者数の推移です。3年ごとの平均が約5万6,000人から約6万5,000人へと約17%増加しています。

最後にエネルギー関連の情報です。

このグラフは、市内の再生可能エネルギー発電量の推移を示しています。10キロワット未満が住宅用の家庭の屋根での発電、10キロワット以上が産業用のものと考えてください。平成26年から太陽光発電は、住宅用・産業用のどちらも増えていますが、特に産業用は、令和元年度には、平成26年の6倍近い約7万1,000メガワットアワーになっています。令和元年の総量は、約9万7,000メガワットアワーで、1世帯の年間消費量が約4.3メガワットアワーのため、世帯

で換算すると約2万2,000世帯分です。工場なども含めた市内に必要な電力の約29.2%に相当します。

以上のことを踏まえ、人が集まる活力あるまちづくりの議論に入ります。

初めに、人が集まる活力あるまちづくりに対する御自身の基本政策について御発言をお願いします。

今回は、順番を入れ替えまして白井さん、下江さんの順に発言してください。発言時間は、3分です。それでは、白井さんお願いします。

○白井倫啓氏 それでは産業政策について、私の考え方を述べさせていただきます。

人口減少がかなり新城市は進んでいます。高齢者はそれほど変わってはないのですが、働く人たちがかなり減ってきている、それが大きな人口減少の問題になっているかというふうに思います。働く人たちは、どのように新城で住んでいただくのかという点が、産業政策の当然要になると思いますが、今回3点を大きなポイントとして提案させていただきます。

1点目は、誰もが新城市、歴史、全国に発信できるものがあるのに、なかなか観光に生かせないよねという声をよく聞きます。自然、歴史、文化あっても、それをどう生かすのか、これが大事だと思いますので、1点目は自然と歴史、文化など観光資源をブランド化、東三河ジオパーク構想の推進を挙げています。

2点目ですが、先ほど自己紹介の中で、山が何とかならんかなというふうにも思っていますが、森林の多面的機能を守りながら、それを雇用に生かしていくという点で、山をどのようにこれから管理していくのが重要になると思いますので、森林から雇用に市内全域に拡大していく。自然エネルギーの活用と合わせて、市内に経済循環をつくっていくという点から提案しています。

3点目になりますが、これも地域を回りま

すと、耕作放棄地が増えています。どうしたらいいのだと。もう後継ぎはおらん、補助金も区画整理地域じゃないので、なかなか出てこない。どうやって守ったらいいのだ、このまま放棄してしまったら、この地域は二度と誰も住めなくなるのじゃないかというような心配の声が聞こえていますので、耕作放棄地をどのように減らしていくのかという点で、農業の在り方を考えています。それを今回どのように進めていくのかを今日の議論の中で深めていけたらということで、農業の在り方、耕作放棄地をどのように防いでいくのかという点について考え方を示しています。

以上です。

○司会者 次に下江さん、お願いします。

○下江洋行氏 今日のテーマであります、産業政策につきまして、私は大きく5つの項目から説明させていただきたいと思えます。

まず1つ目の項目でありますけれども、農業と林業の政策活性化策でございます。まず、農業におきましては、スマート農業の導入に向けた研究、そして新規就農者の支援、推奨作物の産地化定着と新たな推奨作物生産に向けた研究が必要であると考えます。そして、林業におきましては、林業従事者の定着促進そして育成、森林環境税や森林経営管理制度等に基づく間伐の推進です。

続いて、大きな2つ目の観光政策でありますけれども、経済効果を市内の観光事業者が実感できるようなアクションプランの実施。そして、武将観光の推進。ポストコロナを見据えたインバウンド戦略の準備。そして、最後になりますけれども、JRバス、道の駅もつくる新城に乗り入れた、JRバス関東との包括連携協定に基づく観光客の誘致と、そして観光2次交通の充実が必要であると考えます。

続いて、3つ目でございますけれども、市内事業者の事業継続と発展に向けての支援という観点になりますけれども、市内事業者の

雇用と事業の育成及び地域経済の振興のため、地元企業への受注機会への配慮が必要と考えます。

続いて、4つ目の項目でありますけれども、企業誘致また住宅政策等による雇用の場の創出という観点でありますけれども、1つ目は八束穂の事業用地利用計画の策定。そして、豊橋市と共同で進めている東名高速道路スマートICを、周辺地域や市内全体のにぎわいの創出につなげるための振興策の策定が求められると考えます。

最後になります、5つ目ですけれども、再生可能エネルギー普及の推進という観点でありますけれども、公共施設への太陽光パネル設置と蓄電池設置の必要性の検討であります。そして、公共施設へのバイオマスボイラー導入推進の検討。最後に、新都市のエネルギービジョン、これは平成30年3月に策定されましたエネルギービジョンに基づく、消費電力の再エネ率の達成に向けた取組であります。

以上でございます。

○司会者 ここから討論に入ります。

初めに討論ルールについて御説明します。討論については、各立候補予定者が交代でコーディネーターを務めます。1回の討論時間は20分とし、20分が経過したらコーディネーターを交代します。1回の発言時間は2分を目安とします。発言時間が超過した場合には、コーディネーターが発言を制止します。また、コーディネーターの発言時間が長くなった場合には、司会が進行を促します。発言の時間については、画面の左側にてタイムキーパーが個々の発言の残り時間を示し、画面右側でタイムキーパーが、討論全体としての残り時間を示します。討論全体の時間が経過しても、個々の2分間の発言時間は確保します。

ただし、討論全体の残り時間が1分を切った場合には、次の方の発言へは移行せず、その方の発言で討論全体を終了とします。

なお、コーディネーターについては、最初に下江さんが20分行き、次に交代して白井さんが行きます。さらに、もう1度、下江さん、白井さんというように2回続けて行きます。

まずは、下江さんがコーディネーターです。時間は、20分です。それでは、下江さん御発言をお願いします。

○下江洋行氏 それでは、まず1つ目のテーマでありますけれども、森林政策についてでございますけれども、御説明いただきました中の個別政策の中に県立林業大学の創設を、県に求めるというような個別政策が示されておりますけれども、ちょっと具体的に聞きたいことは、場所であるとか規模であるとか。それから、具体的にスケジュール感であったり、生徒さんが集まる見込みであったり、その辺のことを考え方をまず聞かせていただきたいと思います。

○白井倫啓氏 それでは、林業大学の件について、考え方を話したいと思います。全国の林業学校というのが、この近隣ですと三重、静岡、岐阜、長野、それぞれあるのです。これから、山を守っていこうというふうに考えたとき、林業従事者をどこで教育していくのかというのが、大事になってくると思います。愛知県が林業大学を創設したとしても、他の近隣の県が創設しておりますので、特別すごい事業でもないのです。特に、奥三河は山で生きてきた地域ですので、山をどのように生かしていくかということになりますと、県立大学校というような技術を若者、あるいは山を守りたいという人たちに伝えていくという役割は十分あると思いますし、各地の林業大学校を見ていきますと、それほど大きな規模ではないのです。1年、2年で終わるものでありますし、人数としても何百人じゃなくて、何十人という小さな規模で従事者をつくっています。

場所としては、例えば新城東高校の跡地、

教室もいろいろあります。新城東高校の跡地というには、いろんな利用方法がありますので、今後検討する必要があると思いますが、林業大学校の一つの学ぶ場所として、適切ではないかなというふうに考えています。

○下江洋行氏 愛知県には、森林・林業センターがこの新城市内、上吉田にあります。そちらで、林業従事者の研修が行われておりますし、研修プログラムも本格的な充実したプログラムもございます。県がそういう施設を用いながら、新たに、例えば新城東高校の跡地に県立の林業大学校をつくるという、いわゆる二重投資になりかねないような投資を県がすると思われませんか。その実現可能性が大変疑問であります。

森林・林業センターの中に、研修施設はありますので、研修所を増築するなりして、そして、そちらで林業研修を行うというほうが、私はより現実的な話ではないかな、実現できるかどうかは別にしまして思うのですけれども。その点はいかがでしょうか。

○白井倫啓氏 愛知県の林業試験場は、新城市にあるというのは、非常に大きな利点だとは考えてきました。林業試験場は様々な研究を行っています。この林業試験場との提携、連携をして山を守っていくという可能性は、非常に高いというふうに考えています。

下江さんが今言われましたように、林業試験場でも研修棟、研修施設あるということも確認しております。新城東高校で県立大学校を求めていくというのは、これから愛知県との協議にもなってきますし、山を具体的にどのように守っていくかという、その具体的な施策の中で、県との協議をまとめていくということが一番いいのではないかと考えています。

○下江洋行氏 ありがとうございます。

繰り返しになるのですが、何も新城東高校の跡地にこだわらなくても、既に森林・林業センターで行うことができる、そう

いう研修施設、研修ができる場所があるわけですから、実現可能性ということを見ると、県はそちらに集約して研修が行える、そして、いろんな林業の研究が行える森林政策がそちらで組み立てられるというような、そういう場所に集約してやっていくほうが、当然大きな投資が、新たに林業大学校、県立の大学校を創設するということになりますと、今のままの校舎がそのまま使えるわけでもないし、校舎を建設する、また施設を建築する、そういう投資が必要になると思いますので、私は実現可能性という点からすると、先ほど私が言いました、森林・林業センターを活用していくというほうが、より現実味があると思うのですけれど。もう一度確認しますけれども、その点はそうは思いませんか。

○白井倫啓氏 下江さんも林業大学校というものは、必要だなと言うような認識になられているように思いますので、それはありがたいなと思います。

新城東ということでお話をしたのは、新城東高校、校舎がまだ使えるのです、教室もあります。様々な教室の中で、若者がいろんなこれから起業、業を起こしていくという起業していく場所にしていきたいというか、する可能性がある。ベンチャー企業をそこで起こしていく。山を守るということになりますと、切ったものを、今までは切り捨てています。そうではなくて、切ったものを外に全て運び出す。建築用材にしたり、建築用材にならないものを木工製品、木工加工にしたり、あるいは、木工加工にもならないものを燃やして発電にしたりと、いろんな可能性があります、それらの若者とたちとの交流の場所、林業の技術を学びながら、いろんな若者たちと交流できるという、その場所が新城東高校のあの校舎の広さの中に出てくるのではないかと、ということで、現時点では新城東高校を利用するという方向がいろんな可能性を開くのではないかと、いうふうに考えて提案をしていま

す。

○下江洋行氏 それでは、次の違う点に質問を持っていきたいと思うのですけれども、木質バイオマス発電、これは山から切り出した材を利用した木質バイオマス発電の提案をされていますけれども、この具体的な発電の規模だとか、そうしたイメージはどのようにお持ちなのでしょう。

○白井倫啓氏 木質バイオマス発電につきましては、議員時代にも、真庭市とかに視察研修に行っています。真庭市の場合には、かなり大規模な発電所でした。青森県の平川市も同様に、かなり大きなバイオマス発電になっておりましたので、木の確保が大変だということを知っています。

ただ、今のガス化発電ということもいわれるようになっておまして、ガス化しますと、かなり効率が上がってきます。発電をして熱を利用すれば、発電効率が50、60という、ただ燃やすということだけの何倍かの効率が上がってきますし、小型化できるという可能性も出ています。小型化できれば、例えば作手地域で山を守りながら出てきた材を使って、木質バイオマス発電ガス化発電をする。そこでできた熱を、ハウス栽培に利用するということになれば、ますます効率がよくなりますので、その方向でより小型なバイオマス発電を考えていくべきだと思います。

○下江洋行氏 バイオマス発電の特に私はバイオマスは熱利用が現実的だと思うのです。それで東三河、特に新城、北設楽以北の森林資源の活用ということを見ると、実際に人工林の伐採量から、建築用材、また素材の生産量を引いた残りの未利用部分、これを木質バイオマス資源として使うという、そういう考えだと思うのですけれども。これにつきましては、やはりコストに見合う供給可能な量というのがかなり限られると思うのですよ。幾ら小型のバイオマス発電施設といいたしても、この地域の原材料だけで賄えるような、

発電の場合はどうしても蒸気を出して、タービンを回して、発電するというそういうスキームが必要になりますので、イニシャルコストもかかりますし、また、大量の原材料がいるということで、やはり現実的なのは、湯谷温泉のバイオマスボイラーのような加温ボイラー、熱利用これを公共施設の給湯、こうしたところに広めていく、こういうバイオマス政策のほうが、私は地に足のついた、すぐに取り組みめるバイオマス政策だと思うのですけれども。熱利用という観点で、どのようにお考えられたのかお伺いしたいと思います。

○白井倫啓氏 先ほど、話をしましたように、熱利用でバイオマスのガス化発電というのは、より効率が上がるということになります。供給量にしても、これから山に入っていく事業体をどんどん増やしていこうという方向で進めるべきだと考えておりますので、供給量を可能な限り広げていくと、それも蒸気ではないのです。ガスですのでより効率を高められるということで、下江さんの言われるように、非現実的なガス化発電でもありませんし、問題なのは、ガス化発電というのがなかなか日本では実用化されてきてなかったということなのですが。ヨーロッパの技術も、今は活用しながらガス化発電を、日本で行おうとしている企業も出ています。それらの企業と連携して、新城市で可能なバイオマスガス化発電、例えば、先ほど言いましたように作手で、あるいは鳳来地区で、新城地区でということになっていけば、地域に職場が大きく広がっていくというふうに考えていきますので可能性を広げていく、可能性に挑戦するということが今の新城市には必要だと考えています。

○下江洋行氏 小型化のバイオマス発電ということでありましたけれども、以前、白井さんが視察に行かれた先のバイオマス発電の規模というのは、大体大きき的には5,000キロワットぐらいの発電の規模であったかと思えます。それに比べて、小型の発電の規模

というのが、どれぐらいを想定して言われているのか、そこら辺がちょっと分からないものですから。例えば、1,000キロワットの規模の5分の1ぐらいの規模の発電であるとかその辺の具体的なイメージがあったら、ちょっと教えていただきたいと思います。

○白井倫啓氏 数字を今日は持ち合わせてないのですが、何百キロワットでガス化発電はいけたというふうに記憶しています。

○下江洋行氏 それでは、別の質問をさせていただきます。

水力、風力、太陽光という自然エネルギーの活用検討、これは電力ということだと思っておりますけれども、この活用検討、また、実施とあるのですけれども、この具体的な説明をいただきたいのと、これは市内の経済循環ということをイメージされていると思うのですけれども、その点を詳しくお聞かせいただきたいと思えます。

○白井倫啓氏 新城市はエネルギーとして、電気とかガスとかこれらのエネルギーとして、市外に約250億円のお金が出ているということ、新城市のエネルギービジョンの中からも明らかにされています。これらのお金を市内にどのように循環していくかというのが、雇用を生み市内に経済を回していくということになりますので、水力、風力、太陽光など、木質バイオマスの発電も含めまして、市内で自由に使える電気、市外の企業に任せるのではなく、市内で循環できる電気、4年前の穂積市長の公約には、新城エネルギー公社というのがありましたが、エネルギー公社が成り立つという前提というのは、自前のエネルギーをどのようにつくるかということになってくると思っておりますので、水力はこれまで、やまつきぶに水力発電の跡がありました、それも調査されています。それが実現可能かどうか、それを再度検証していきたいと思えますし、風力も検討されたことがあります、地域の理解が得られなかったという経過もあります。

これも検証、検討していきたいと考えていますし、太陽光も今は耕作放棄地にならないよ  
うにということで、いろんなところに太陽光  
パネルが設置されていますが、これを新城市、  
あるいは新城市が出資することになるのかも  
しれませんが、エネルギー公社的なもので管  
理していくと、どこにどのように太陽光パネ  
ルを設置していくべきか、地域の皆さんと了  
解を得ながら進めていくべきだと考えていま  
す。

○下江洋行氏 一つだけ確認させてください。  
この地域内で循環するという条件は、やはり  
発電所があるということ、それからこの市内  
に地域電力会社があるということだと思いま  
す。市外では出ていってしまうということで、  
そうしたことから、今の白井さんの考え方を  
聞かせていただくと、4年前に穂積市長の政  
策で掲げられましたエネルギー公社、これは  
地域電力会社というイメージでいいと思うの  
ですけれども、それをやはりこの市内にしっ  
かりとつくと、そういう大きな方向性とし  
ては、4年前の穂積市長と同じ考え方とい  
うことでよろしいですか。

○白井倫啓氏 考え方として違うのは、自前  
の電気をどうつくるかという具体的な方向が  
示されてなかったのではないかと思います。  
私は、新城でどのように電力を自前でつくる  
のか、一部ではエネルギー自治ということも  
言われるようになっていきます。エネルギーは  
自治の問題なのだと。自分たちでエネルギー  
をつかって、それを雇用にも役に立て、経済  
を回すと、そういう動きが出ています。現在、  
新城エネルギー公社が検討で、無理だとい  
う判断をしましたがけれども、自前で電気を  
つくるというその観点をしっかり持って可能  
性を開くために、各地の先進事例を学ぶ、  
あるいは学者の方、世界の動きを見てい  
けば、エネルギーの自治というのは、早  
いか遅いかだけです。

早く取り組み、国の支援も早ければ、それ

だけ厚くなると思いますので、新城がその  
先進のまちになる。この思いが今は必要だ  
と考えています。

○司会者 これで残り時間が1分を切りま  
したので、コーディネーターを交代します。

続いて、白井さんコーディネーターです。  
時間は同じく20分です。それでは白井さん  
お願いします。

○白井倫啓氏 それでは、質問させてい  
たきます。

スマート農業の導入に向けた研究という  
ことで提案されていますが、農業というの  
は、新城におきましては大規模ではないの  
です、小規模農業が多いわけですから。特  
に、やまつきぶ、中山間地になりますので、  
大きな面積ではありませんし、真四角な  
成形な大型機械を入れて効率を上げよう  
とは、なかなかできないような地域でも  
ありますが、スマート農業の導入というの  
は、どのような場所を想定し、どのような  
方向で新城市の耕作放棄地を含めた農家  
の皆さんの心配を払拭しようとしている  
のか、どのような研究なのか、あるいは  
研究するだけなのか。研究した成果はいつ  
出するのか、具体的にお考えがあればお聞  
きしたいと思います。

○下江洋行氏 まずは水稻におきましては、  
圃場整備がされた水田の水田水管理シス  
テムであったり、これは棚田であるような  
ところとかそれから形状が成形ではないよ  
うな場所というのは、なかなか難しいと  
思うのですけれども。水管理システムであ  
ったり、さらに同じく水稻であればドロー  
ンの栽培支援であったり、さらには畜産  
部門でも、和牛の繁殖農家の方の現場も  
見学させていただきました。母牛の体温で  
それを検知して携帯にシグナルが鳴ると、  
お産が近づいてきたら知らせるとい  
うようなそういうICTを取入れている事  
例も、もう既に市内の繁殖農家にはあり  
ます。

そうしたことから、それぞれできるところ  
からやっていく、それに特に担い手不足と、

それから農家の高齢化が進む中で、これから持続可能な農業を続けていくためには、やはりスマート農業、ICTを駆使した政策を取入れていくというのは、これは必要なことであるというふうに思っております。

また、成果ということでありませけれども、全国で様々な実証試験が行われております。この地域におきましても、施設園芸でも、また路地ものでも、実証実験が行われるようなそういう取組も行って、これをスマート農業の推進につなげていく必要があるというふうに思っております。

○白井倫啓氏 それでは、この件で2問目質問させていただきますが、スマート農業で、確かに利用できるというのは、データの整理であるとか、天気の予想であったりということであって。それほど新城市にとって、今耕作放棄地がかなり増えています。かなり増えているのですが、スマート農業によって、今心配されている多くの方、耕作放棄地をどうしよう。このままでは、この集落が草だらけになってしまうという人たちの声に応えきれないのではないかと思います。ドローンを飛ばしましたといっても、小さな面積でドローンを飛ばすほどの確認をしなくてもできるような場所がたくさんあります。その中で、スマート農業によって何が解決できるのか、今困っている人たちに対して、どのような希望、夢を与えることができる、スマート農業を考えておられるのか、もう少し具体的にお考えをお聞きしたいと思います。

○下江洋行氏 冒頭で資料で示していただきました、耕作放棄地の発生状況という資料がございます。グラフで示してありますけれども、やはり耕作放棄地は、増加傾向にありますし、このスマート農業の推進が、耕作放棄地対策に直結するというふうには、なかなか言えないというふうに、私も思っております。ですので、現状今耕作をしている農地、これを継続して行っていくために、当然このスマ

ート農業を取り入れることによって、労働力不足が解消されるわけですし、それから、農家の方の働く時間の短縮にもつながります。よりそういう環境が整うと、若い人の新規就農にもつながりやすいというふうに思いますし。また、大変圃場整備されて広い水田耕作地もあります。そうしたところでは、大変ドローンは有効であると思います。これは肥料の散布であったり、また生育の状況確認であったりうしたことは、やはり自動化、ロボット化の技術を取り入れて、現状を最初に言いましたけれども、農家の高齢化が進む現状、また、担い手が不足している現状の解消につなげていくためには、このICTの積極的な導入というのは、必要不可欠な時代に入っているというふうに思っております。

○白井倫啓氏 冒頭にスマート農業だけでは、解決できないというようなことを言われたのですが、スマート農業でなぜ効率化が図れるのかとか、後継者不足に対応できるのかというのが具体的に分からないのです。今、耕作放棄地になっているところは、耕作不利益地です。不利益地以外でも起きているという深刻なところもあるのですが、そこにスマート農業によって、耕作放棄地を防ぐことができるという理由を、それを具体的にお聞きしたいと思います。

○下江洋行氏 私はこの政策シートで、スマート農業が耕作放棄地を減らす、また、防ぐことができるという、そういう考え方に基づいて書いているわけではありません。あくまで、これからの担い手不足の現状、そして農家の高齢化の現状、そういう状況の中で持続可能な農業を、この新城市で続けていくために自動化ロボット化、そして、データの管理による熟練労働者のノウハウというのを、次の世代に継承していくことが、今までよりもやりやすくなる、それがこのスマート農業のデータ化によるものです。これは従来なら3年、4年、5年かかって修行をして、そして

継承していたものが、そんなに時間をかけずに、データ化によるスマート農業の取組によりまして、熟練農家の技術の伝承やノウハウを新規就農の方も継承しやすくなる。そういう大変大きなメリットがこのスマート農業の取組にあるというふうに考えております。

○白井倫啓氏 スマート農業というのは、資本投下が必要になります。今、後継者がいない、耕作放棄地が増えている、これを解決するためのスマート農業になりますと、それなりの資本投下が必要になってくるわけなのです。それでこのようなことも言われているのです、今は二極化が進んでいるということが言われています。二極化というのは、資本がある農家、あるいは企業はスマート農業等も入れまして、資本を投下して大規模に効率よくやっている。しかし、小規模農家というのは、資本がありません。家族経営であったり仲間とやっている、大きな資本がないのでどのように生き残っていこうかというのを、今模索しています。一方では、先ほど言いましたように勝ち組、一方では負け組という二極化が進んでいると言われているのです。

下江さんが言われるように、スマート農業ができる条件が広がっている地域であれば、その可能性はあるかもしれませんが、新城みたいな中山間地で、スマート農業で効率化が図れるというのは、なかなか理解しがたいというふうには思います。

それで、次の質問にいけますが、先ほどの下江さんのお考えの中に、新規就農者支援もスマート農業というものにつながるというようなことがありましたので、新規就農者の支援ということを、具体的にお伺いしたいと思います。

○下江洋行氏 新規就農者の農業関連の冒頭で示していただきました資料を見ますと、平成26年度から5年間で36人の新規就農者が定着してくれております。特に、市外からの転入の方もこの中には多くいらっしゃる

ということも確認をさせていただいております。この新規就農者に対する支援のポイントにつきましては、やはり、今、市の農業課のほうで行っております、まずは就農相談から始まりまして、さらに農業体験、そして資金計画であったり、それから経営計画を立てるお手伝い、さらには農林業公社における農業研修、そして、就農というその流れの中で、就農した後も、きめ細かい補助のサポートであったり、経営支援であったり、そういうこれまでの市の行ってきました就農支援、これの継続が必要であると思えますし、実際に新規就農でインターンで市外から農家で定着してくれた新規就農者の方も、新城市の就農支援が市の就農支援が手厚いという、こういう理由で就農された方もいらっしゃることも確認をしております。ですからま他にも様々な補助金のメニューもありますけれども、まずはこれまでの取り組みを継続していく。地道な取り組みが必要だというふうに思っております。

○白井倫啓氏 これまでの継続で新城市の農業が大変になっているわけですね。これまでやってきた支援でも耕作放棄地を心配する農家の人たちが増えています。現在農業従事者の平均年齢67歳、平成27年時点ですが、70歳以上が約50%を占めています。就農支援して毎年5人、6人増えたとして、心配してる耕作放棄地。これを減らすことはできない、可能性が非常に高い。何故かと言うと、新規就農者というのはハウス栽培、施設園芸の人達が大半だと思いますので。それだけでは新城の今起きている現状これを変えることにはならないんですね。必要なのはこれまでの支援を継続することと、合わせて新しい方向。スマート農業だけ、必要ないと言いませんので、スマート農業プラス小規模であるんですけどここで農業をやりたい人達をどう支えていくかという、将来に向けての支援が必要だと思えますが、その点についてお考えはおありになりますか。

○下江洋行氏 確かに新規就農者の就農は、この新都市の推奨作物であります夏秋トマトであったり、それからイチゴほうれん草、そうしたものが主であると思います。おのずと施設園芸ということになるんですけれども、先ほど言いました就農支援のスキームプラス、施設園芸団地の整備の補助メニューもありますし、また住宅転入してこちらの新都市に来てくださる新規就農者に対する住宅支援、住居費の支援、そうしたことも補助メニューでございまして。そしてさらに、農業リタイヤする方の空きハウスの有効活用の斡旋。そうしたことも総合的に行いながら、これまでの最初に申し上げました就農支援を引き続きやっていく、もうこれ以外にないというふうに思います。

○白井倫啓氏 現状を大きく変えない限りは、新城の農業の置かれている状況を変えられないんじゃないかと思えます。先ほど小規模農家が負け組だという二極化が生まれているということを話をしましたが、小規模農家でも生きる道があるということも言われてるんですね。どうやって生きてくんだということなんですが、消費者により寄り添えると大規模ではないから、消費者により寄り添えるということがあります。

例えば、ネット販売というのがあります。個人ではなかなかしづらい、しかしネットで例えば食べチョコというような通販サイトがあります。ここにはこだわった農家の人たちがそこに自分の商品を提供して、商品を買ってもらえるということがあります。この食べチョコという通販サイトっていうのは、こだわって消費者と繋ぐこと繋がることできれば、生産者別月間最高売上というのは載っていますが、野菜で705万円という、売上をあげてる農家があります。ですから私は思うのは、こだわりをどのように新都市がサポートできるかということが必要になってくると思うんですね。新都市だからできる農業。例え

ばまさかに言ってきましたが、自分自身がやってきた有機農業、これもひとつだと思うんですね。ここにこだわっています。自然に配慮した農業をやっています。私の作ったものこういうものですからということで紹介することで、それに共感してくれる全国を視野に入ればお客さんたくさんいます。それを考えれば、新しい方法あると思います。これまでの発想を超えなければならぬと思いますが、そのようなお考えはありませんでしょうか。

○下江洋行氏 ちょっと抽象的な感じの質問に思いましたけれども、思いだけではどうしようもならない、できない部分もあります。これまでの新都市の農業政策の一貫性と継続性で新規就農者を増やしていく、そういう取り組みを続けていく。そして、新都市は、第一次産業から第三次産業までの生産高の農業の占める割合っていうの大体1%台なんですね。これは60年前になると思うんですけども、新都市が企業誘致条例を制定しまして、産業構造を農業から工業に大きく転換する舵を切って60年経過しました。そうしたことからこういう新都市におきます製造業を、そして工業をもちろんサービス業もウエイト大きいですけども、中心とした産業構造になってきたんですね。そうした中で当然農業経営体数も減ってきておりますし、また認定農家の数も確か90人前後だったと思います。そういう現状の中でも地道な努力として、奨励作物を定めて、それが定着していくように、そしてさらには市外からの新規就農を新都市に住んでインターンで入ってきてくれて、就農してくださる、新規就農者を育てていくサポートをしていく支援していく。これは行政のみではなく、その住まわれる地域の方の応援っていうことも新都市には大きな新規就農者に対する後押しになっていると思います。そういうことを踏まえまして、地道に農業政策はこれまでの市の政策を継続していく。こ

ういうことであるというふうに私思います。

○司会 はい、それでは討論時間が1分切りましたので、次に移りたいと思います。少しこれでワンターン目が終わりましたので、少し間を取りたいと思います。

はい、それでは引き続き2回目の討論に入ります。続きまして、また下江さんのほうからコーディネーターをよろしくお願いします。○下江洋行氏 はい、それでは次に白井さんの政策シートにあります3つめの有機農業のまちづくりというところで、話をしたいと思います。まず、白井さんの有機農業に対する熱い思い。またの日頃の農業活動での取り組みということは、これまでも聞かせていただいておりますけれども、新城市内の農業の生産高に占める有機野菜、有機農産物の割合というのは現状どのように、現状がどうあるのか、どのように見込んで、それで新城市は有機農業のまちづくりが必要だっている考えを打ち出されているのかを伺いたいと思います。

○白井倫啓氏 現在、有機農産物の占める割合というのは、非常に少ないと考えています。先ほど言いましたように新城市の農業をこれからどのようにしていくのか。10年、20年後どのようにしたら後継者が育つのか。あるいは市内外から若者と呼べる農業を支えることができるのか、という視点で有機というものをしておりますが、世間では先ほど言いましたように、こだわりのものに対してはお金を対価として出してくれています。ただ作ったというだけではなくて、自分で何にこだわったのか。味にこだわったのか、安全にこだわったのか、自然環境の中で作ったというその環境にこだわったのか、いろんなこだわりがあると思いますが、そのこだわりが小規模農家を支えていくことになりますので、農業政策としては、施設園芸も支え、大規模農家も支え、これから新しく新城で広げていく必要があるこだわりの農産物。市内外から

選ばれる農産物をどのように作っていくかという視点で1つは有機をあげていますし、有機ということを発信することで、例えばこの近くには名古屋という大消費圏がありますから、大消費圏の皆さんにアピールして、新城というものは何を作っている。自然環境に配慮して農業を市が支えている。そのようなイメージを多くの人達もってってもらえるような、農業の政策を作っていくべきだと考えています。

○下江洋行氏 有機農業に向けての投資また有機農業に関係する新規の政策の投資っていうことは当然想定されていると思うんですけども、その上で私が確認したかったのは、今農業産出額の数字も資料でいただきまして示していただきました。大体70億円新城管内で70億円の後半ぐらいの数字で推移したものが、令和元年度には59億円ということであるんですけども、この生産額の中の今何割ぐらいの生産額は有機農業なんですか。少ないということは分かったんですけども、それが分からないとこれから、そこを柱にしていく農業政策にして行くべきか、それとももっと全体構造の中で、バランスをとってひとつの分野として大事にしていくけれども、それ以外の従来型の農法の農業にもしっかりと軸足を置いていくっていう考え方を持たないといけないと思うんですけども、その点いかがでしょうか。

○白井倫啓氏 下江さんは農業をどうも限定的に捉えてるんですね、固定的に。有機農業っていうのはこれから広がっていくだろうという農業です。国もやっと力を入れたという状況にあります。世界の状況を見れば、第1回目のときも話をさせてもらったんですが、有機農業というのは全世界的には面積も拡大し、作付面積も増えています。日本におきましても、国としても作付面積を2倍にまずしようと。これから規模が拡大していくという農法であるということです。現在やって

ないからそれが数字に表れていないんで、力を入れないということではなくて、可能性があることを行っていくって言うことが必要になります。例えば先ほど耕作放棄地で何回かお話しさせてもらったんですが、今お米の値段が、1万円を切るって言うようなことを言われてます。1万円を切ったら誰がやるんでしょうかという状況です。年金つき込んでお米作ってるって言うような高齢者の方もおられました。例えばお米の値段をどう上げたらいいのか。これによって生産額、算出額が高くなります。コウノトリを育むお米ということで、兵庫県豊岡市では、コウノトリを守るためということで自然にできるだけ優しいお米作りをやって、1俵販売価格で3万円を超えてるんです。こういう農業に対する価値をどう上げるか。これが新城市としてもこれから農家を支え、農業を守って、この大地を守ることに繋がると考えています。

○下江洋行氏 有機農業の作付面積を増やしていく、倍にしていくとか、そういう考え方は私もいいと思いますし、賛成でございます。そしてやはり安全な食の提供ということで白井さんが大変こだわる理由も当然理解しております。一方で今農業経営体の方が大体1200人ぐらい。そして先ほども言いましたけれども認定農業者の方が九十数名ぐらいという、こういう方の中で、そうだ、じゃ有機農業を目指そうと思われる方がどれぐらいいらっしゃるのでしょうか。これからそういう方をこの中から募っていくということなんでしょうかね。

○白井倫啓氏 有機農業を強制的に何かを求めておられるような誤解があるように思うんですが、有機農業はあくまでも農家を選ぶことです。有機農業でやってみたいという農家の皆さんには、しっかり支えるという政策を作っていくべきだと思いますし、若者を新城市に農業者として来てもらおうとしたときに、より安全な農業のあり方、技術指導もある。例

えば空き家対策として、住む場所を保証したり、自分が努力して作った野菜を売る場所、これを新城市が確保すること、作ること。これが出来てくれば、おそらく全国には有機農業を目指す若者たちはたくさんいます。現実で私が仲間とやっている産直の市場なんですが、そこには3組の夫婦が新城に移り住んでくれています。これを考えていけば、有機農業は、1つの新城市農業を支える力になり得ると思います。先ほど言いましたように有機農業をやってみようという人たち、有機農業で生活を成り立たせ有機農業を周りの人達に広げていく、そういった先進事例を有機農業の人達にも作っていただきたいと思ったり、当然の話として有機農業だけで食料をまかなうこともできませんし、すべての農地守ることできませんので、いろんな考えがあっっているやり方があって、それを新城市が支えて、農地を守っていくこの地域を守っていく。そのような新城市が必要だということで考えています。

○下江洋行氏 はい、全体の新城市の農業の中でのウエイトという部分において、やはりこれまでの農法で行ってきまして農業に対する支援。やっぱりこっちはしっかりとこれを軸にして、そして白井さんの言われる有機農業につきましても、1つの分野として大事にしていくという、全体のバランスというの私は必要だなんていうふうに思います。広く農業者の方に理解と協力が得られるような、市の農業政策という観点で農業政策はあるべきだというふうに思います。そこでちょっと次の点になりますけれども、先ほどは耕作放棄地の活用のことを言われました。その白井さん自身が耕作放棄地活用の具体策がどのようにあるのか、お聞かせいただきたいと思ったり。

○白井倫啓氏 これまでの討論で何回も話したように思うんですが、耕作放棄地が何で出るのかです。後継者がいないというも当然あ

りますし、何故後継者が育たないかって言ったら農業で食っていけないというに考えるからですよ。米が1万円を切るような状態で、若いこれから子どもを育てるって言う人たちが果たしてできるでしょうか。農業目指さないと。だから先ほど言いました、例えばということで、豊岡市の取り組みを紹介させていただきました。1俵3万円になります。何故かっていいますとこだわっているからなんです。豊岡というその地を守ろう。コウノトリという生きもの。昔日本全国にいたはずなんです、コウノトリが日本から消滅しそうな状況の中でコウノトリを守る。その大きな目的の中で、そのために農業はどうあるべきかっていうことを豊岡市は考えました。それで、私も視察行きました。生産組合の視察でも行きましたけど、全国的にも注目される農業をやっているわけです。新城市もそのように全国に発信できる農業。ちょっと行ってみたいなって視察してみたいなってどんな農業やってるんだらう、みんなどんなことを考えてやってるんだらう。特に環境問題は今言われるようになりました。子どもたちは環境を学んでいます。そこに生きてる生きものたちっていうものを守っていきこう。共生していきこうという思いになっています。農業もそうあってほしいというふうに思って、有機とかこだわりというものを考えるべきだということ強調しています。

○下江洋行氏 はい、私も豊岡市の事例につきましては学んでおります。白井さんの思いということで受け止めさせていただきます。それは続いて、次の点でありますけれども、学校給食の地産地消を100%の追求とありますけれども、現場の地消率踏まえてこの実現可能性をどのように考えられて、この100%を目指すという考え打ち出されているのでしょうか。

○白井倫啓氏 追求ということで書きましたが、なかなか難しいのは醤油とかなかなか新

城市では現実できない部分はまだあります。醤油、調味料、加工品等できない部分がありますので、それも農業を広げる中でできるのであれば、産業として誰かがそのものを作ってくというそんな産業起こしていきたいという思いも、夢も込めまして、追及と書いてありますが、基本的には野菜、米、これについては地域の農家の人達にお願いをし、子どもたちの食教育という点で、できるだけ安心、安全にこだわってほしいというお願いをしながら、地域の農業も支えながら、100%の地産地消を目指したい。全体の金額としては、2億円というような1回目の議論ありましたが、2億円のお金が学校給食で動いています。このうちできるだけ多くを市内に取り込むことができれば、農家の支援にもなりますし、市内商業者の支援にもなると思いますので、学校給食の地産地消100%目指していくべきだと考えます。

○下江洋行氏 はい、現状は野菜等の原料がほしい地消率が14%です。加工品が8%で合計で22%ぐらいが現状の地産地消率なんです。ですから新城市は、30%をまず目標ということで実現可能な目標設定をしておるんですよ。今聞く限りでは非常にただ思っただけで実現不可能な目標のように聞こえるんですけど、その点いかがでしょうか。

○白井倫啓氏 実現不可能ではないんですね。野菜、米って新城にあります。加工品も確かに今ないんですが、産業起こすっていう視点も大事だと思うんですね。今子どもたちにこういうもの欲しいから、こういうものを作ってみようよ。というところから進めていかなければ、無理だ無理だと言いついたら全て無理になってきます。山を守るの無理だ無理だってここまで来てしまいましたが、無理だと言って放っておいたら山崩れ崖崩れ、それ大雨で大災害を抑えるっていうこともできなくなりますし、農業も駄目だ駄目だと言って可能性を否定してしまえば、それで改革も終わ

ってしまうんですね。学校給食に何が必要か、それをまず第一においてできるだけ市民の皆さんの協力を仰ぎ、100%を目指していくという大きな目標を持つから達成できるってことはあると思うんですね。だから無理だ無理だということではじめてしまえば、新城市政これから大きく変わっていくことできないんじゃないかと思いますが。

○下江洋行氏 はい、不可能だと言ってるわけではなく、現実論として私は議論したいのでそのような言い方をさせていただきました。それでももう一つ最後に食教育、これを全世代に広げることで発達障害、未病認知などの対策に繋げるということなんですけども、これも有機の食によりこういう対策に繋げるって言うことなんですけど、もう少し詳しく考え方を聞かせてください。

○白井倫啓氏 食教育の大切さというのは下江さんも同様だと思うんですね。学校給食というものを子どもたちにしっかり伝えるということは、子どもたちから家族に伝わることになります。家族から地域に伝えることにもなってくると思います。食べ方で病気が出たり食べ方によって健康になったり、体というのは食べたものでできてるわけですから食べるものっていうのが、何が安全なのかどのような食べ方がいいのかっていうのを、具体的に子どもも理解し、子どもから家庭も理解し、地域も理解していうことになってくれば、政策討論会1回目に議論になりましたが、可能性として発達障害が農薬の影響があるとかいうことも言われてます。認知というのも脳神経に何か影響してるんじゃないかと、食べ物が影響してるんじゃないかということも言われてますので、食べるということを新城市の中心において、病気にならない、健康寿命をあげてくっていう方向で、より細かく市内に食教育というものを広げていくということが、新城市の多くの人にとっての幸せに繋がるんじゃないかと考えます。

○下江洋行氏 ありがとうございます。

○司会 はい、それでは時間が参りましたので、再度順番を入れ替えまして、白井さんコーディネーターよろしくお願いします。

○白井倫啓氏 はい、それでは質問させていただきます。木造住宅における市内材利用の促進に向けての補助制度の創設とありますが、具体的な考えがあればお聞かせください。

○下江洋行氏 はい、これはこれから補助制度の創設に向けて具体的な考え方は、固めていかなければなりませんので、具体的に予算規模であるとか、その内容につきましてはこれからと考えております。新城市の林業政策、そして産業政策の中で、この木造住宅市内の工務店が建築する木造住宅における市内産材を利用することによって、それを行政の方から若干補助をすることで、市内山林の用材の利用促進に繋がるし、それからそのお金が地域で回る。そしてより建築業者、市内の工務店の方のお客様のニーズに合った仕様の建築に繋がるということから、市内産材利用の促進ということで、補助のメニューの内容につきましては、まだこれから検討していきます。令和5年までに補助制度を創設するっていうこういう計画でございますので、そうしたスキームの中で考えていく必要があるように思っております。

○白井倫啓氏 イメージがないということであれば、これ以上聞きするのは無理かと思えますので、次の質問をさせていただきます。

武将観光のところですが、武将観光の推進と言われているんですが、武将観光推進の具体的なイメージをお聞きしたいと思います。

○下江洋行氏 はい、武将観光は新城の戦国時代の歴史にまつわるいう武将観光。私は徳川家康をテーマとした武将観光が大変これが広がりを出てくる1つのテーマだというふうに思っております。まずは徳川家康の生誕の歴史が鳳来寺にあります。そして東照宮が鳳来にございます。そして鳳来寺を開山した利

修仙人が、湯谷温泉を発見して開いたと。鳳来寺そして長篠設楽原の戦い、そして湯谷温泉というその観光資源、そして観光のテーマがパッケージになっていくということから、徳川家康をテーマとした武将観光をこれを進めていきたいというふうに、進めていく必要があるというふうに思いますし、また大河ドラマの「どうする家康」の放映が決まっております。井伊直虎のときにも感じたんですけども、この大河ドラマの効果が一過性のものに終わらない為にも、今から徳川家康をテーマとした武将観光の推進に向けての準備をしていく必要があるというふうに思っておりますし、またこれは戦国のインバウンドの政策とも関係してくるんですけども、私はちょっとインバウンドのターゲットの国も考えておまして、やはり戦国史、この新城この地域の戦国史の旅というテーマでインバウンドで誘客できるという可能性がありますので、そうしたことから徳川家康をテーマとした武将観光ということの一つ、白井さんの質問に対しての答えとさせていただきます。

○白井倫啓氏 はい、わかりました。徳川家康を中心としたと言われたんですが、徳川家康を中心とするということであれば、もっと新城全域を巻き込んだ形の武将観光にしていけば、観光客、インバウンドの可能性がさらに広がるように思いましたけども。2016年頃に新城市はガイドマップを作りましたが、このガイドマップの中に武将観光ということで、起承転結で武将観光を進めると書かれた時がありましたが、このガイドブックは御覧になったことありますか。イエスカノーだけでいいです。

○下江洋行氏 市の作ったガイドブックですよ。はい、見た記憶があります。

○白井倫啓氏 そのガイドブックに起承転結と書いてありましたが、起承転結ですか4つの場面がありますが、この4つはどのように書かれてあったか御記憶にありますでしょうか。

○下江洋行氏 すいません今記憶にありませんのですぐ答えられません。

○白井倫啓氏 このガイドマップを見た時にまさにこれだというふうに私は思いました。武将観光っていうものは県でも進め始めてた頃なんですけど、新城市でいえば合併しました。合併して観光を全市に広げることが可能になりました。お城でいえば長篠城っていうのは、やっぱりまず第一かと思いますが、千郷地域では野田城がありますし、作手は龜山城と古宮城というのがあります。これらを繋げていくと徳川家康も繋がってきますし、信長も秀吉も繋がってきますので、当時のガイドマップ武将観光、起承転結。これで行くべきだというふうに思いましたが、その起承転結っていうのは、野田城攻めで始まって、長篠の戦いでした。設楽原の戦いで新城市築城というこの4部作で、こういったの武将観光というものが、これから必要になるんじゃないかと徳川家康だと、ちょっともったいないなど、もっと新城の資源を幅広く活用すれば、武将観光の奥行きがぐっと広がると思いますが、そのように考えられたことはありますでしょうか。

○下江洋行氏 その考え方はまさにそうだと思いますし、今私は徳川家康というテーマは今タイムリーである。当然大河ドラマで「どうする家康」という放映が決まっていることでもありますし、最初に言いましたとおり、湯谷温泉そして鳳来寺東照宮という、この地の観光資源、そしてこの地の観光で経済効果に繋がるための資源に繋がってくるひとつのテーマが広がってくるという意味で、ひとつのアイデアとして徳川家康ということ言わせただいたということでもありますし、また武将観光は、観光の一部だと思っております。メインっていう考え方ではなくて、やっぱり今の主流になってきているというか、大きな可能性が広がってきたのがスポーツツーリズムで

あると思います。新城ラリーもそうですしサイクルツーリズム。それからトレイルレース、そしてアウトドアスポーツツーリズムの可能性が大きく広がってきましたので、特に観光資源を組み合わせ、スポーツツーリズム、そしてアウトドアレジャーと温泉、資源をつなぎ合わせて、また食べもの、食と結び合わせて、経済効果に繋がっていくような、そういう観光政策っていうのをこれから進めていく必要がある。これが次の追加のアクションプランとして実施実践していく必要があることだと思います。

○白井倫啓氏 下江さんの言われるアクションプランですね。様々なことを繋げて新城市に観光広げてくつという、そのさまざま様なものを繋げるっていうのは、それはそれで、可能性がゼロとは言いませんが、これまで新城市っていうのは、観光基本計画を作りそれに基づきまして、観光基本計画アクションプラン前期、新城市観光基本計画アクションプラン後期ということで平成31年度までで終わってしまったんですが、計画はたくさん作りました。たくさん作ったんですが、具体的にその成果が見えていないような気がするんですね。思うに総花的であればやりたい、これもやりたいという計画になっていたように思いますが、これまで様々な計画作られてきているんですが、何故観光客が増えたというデータありましたが、もつくる新城に300万が急に増えたということであって、入込客数でいうともつくるがなければそのまま停滞している。あるいは下がっているという状態なんですね。これまでの観光アクションプランというような、観光のビジョンがありましたが、具体的にどのような成果があったのか。課題は何だったのかその辺りはどのように分析されているのでしょうか。

○下江洋行氏 はい、観光政策で必要なことは、私はどうしても経済効果に繋がらなければいけないわけですから、宿泊を増やすって

ことだと思うんですね。それで資料でいただきましたデータを見ますと、新東名高速道路が開通してから、宿泊客は17%でしたかね増えているという数字も示していただきました。大体日帰りのお客様でなくて宿泊を伴う誘客になりますと、日帰りのお客様の5倍近い消費が発生するわけでありまして、これは言うまでもないんですけども、ランチもディナーもそれから朝ご飯もそして体験をしたり、そしてお土産も買う。滞留時間が長くなるので宿泊を増やしていくという取り組みが必要だと思います。それには私はスポーツツーリズムの可能性が大きく広がってきているっていうことを言いましたけれども、この間新城市の観光政策の中の1つで、スポーツツーリズムの取り組みっていうのは大きな成果を上げてきているというふうに思っております。これをさらに先も言いましたけれども、他の資源と組み合わせ、そしてより経済効果に繋がっていくっていうことをやっていくことで、さらに経済効果に繋がっていく。こんなことができるというふうに思っておりますし、具体的にはアウトドアスポーツのSNS、コミュニティサイトがありますよね。私もそれを見たりするんですけども、山歩きであればヤママップであったり、それからサイクルツーリズムであればストラバであったり、そうしたところの情報発信っていうのはものすごく誘客に繋がっていくんですね。つまり来てくれたお客さんが個々のお店を紹介して、コミュニティサイトの中でそれが拡散されていく。実際そういう動きの中で地域に経済効果が生まれていく。そういう昨今の現状でありますので、スポーツツーリズムは1つの核として、そこに資源を結びつけてアクションプランを行っていくっていうのは、私は大きな可能性に繋がっていくというふうに思っております。

○白井倫啓氏 どうも質問と考え方が違ってくるように思うんですが、観光アクションプラ

ンとかこれまで様々な計画がありました。しかしそれがどうであったのか。それをどのように判断されたのか。課題があるのであればどのように解決するのかというふうにお聞きしたんですが、どうもこれまでのように、様々な資源を連携させるとか可能性があるので頑張るといふそういうレベルの話になってしまってるんですが、これまで観光課が少ない職員の中で、なぜ具体的に政策を作り、それを実行できなかったのかって考えていきますと、イベントが多すぎたってということも一つあると思うんですね。年間とおしていろんなイベントがありますので、イベントに追われて担当課の職員というのは、次の新都市の観光のこと考えられないというようなことも言われていました。ですから下江さん言われる、こうしたいああしたいというのはあるんですが、それを言い続けてもいろんな計画を作っても、具体的に地域が潤っているのか、地域に産業が起きてるのか、じゃあ若者たちは定着する後継者が育つのかって見ると、それができていないんで観光というものをもう少し具体的に可能性がこうなんだということを市民の皆さんにお伝えしないと、市民の皆さんの御協力得られないと思いますが、これまでどおりの説明ではなくて、これまでこれが足りなかったという点。その点をもし具体的にお考えがあればお聞きしたいと思います。

○下江洋行氏 はい、観光の今後の取り組みの中で、やはり新都市は確かに自然豊かで観光資源に恵まれてるとは言いながらも全国規模で見ると例えば京都とそれから北海道、沖縄というところは、やはりまあA級観光地といますかね、すごく吸引力があるわけですよ。それ以外の地域、地方に行けば自然豊かで観光資源がたくさんあるところは、もう山ほどありますし、そのB級観光地というふうに思いたくないんですけども、A級観光地以外のその99%に含まれるまちと言われて

もそれは致し方ないと思います。ですからそういうこの新都市の観光政策をしっかりと経済効果に結びつけていくためには、ここにも政策シートにも書きましたけれども、専門機関や大学との連携ってということも書きました。これは愛知大学の地域政策学部の学生さんにも、観光政策に取り組んでもらったり、ということもしてきましたし、大学に観光学部がある東京の私立大学もあります。そうしたところの連携とそれからの観光政策の模索ってということも必要ですし、観光消費コンサルタントというプロの力を借りるってということもこれまでしてこなかった、それほどこれまで本格的にやってこなかったことだと思いますので、プロの観光消費コンサルタントの力も借りて、そしてこの地域の観光の可能性をしっかりと見出して行く。観光はまちづくりであって、人づくりであるので、地域の新都市の皆さんが、このまちは観光のまちだよということでおもてなしの心を持ってもらうこと、人づくりそしてそれが観光政策に繋がっていくというふうに思いますので、今はやはりその観光の原点に帰って、ただこれまで積み上げてきたものを大事にしながら育てていく。こういう考え方で観光に取り組んでいく必要があるというふうに思っております。

○白井倫啓氏 どうもお聞きしてることに答えしてくれないんですが、観光政策を充実させることってというのは、新都市の産業を興すことに当然繋がってきます。若者の雇用を作ることにもつながってきます。結果として人口減少を止めることに繋がってきますので、これまで観光政策に何が足りなかったのかということをお聞きしたかったんですが、どうも繰り返しになりますので、最後の質問ということになります。スマートインターの建設が決まりましたが、周辺地域の振興策と書かれています。具体的にどのようにお考えなのかお伺いします。

○下江洋行氏 はい、スマートインターは新

城の八名地区南部に計画をされますし、5年後6年後ぐらいには供用されるぐらいのスケジュールで進んでいくというふうに思っておりますので、この八名地区におきましてはの農振地域でまたへ農業が盛んでありますし、自然豊かな環境にあります。そしてまた逆に市街化調整区域での住宅の建築に規制が厳しいという現状もありますので、まあそんなことも含め、さらに、南部企業団、八名井の企業団地、そして富岡にも企業団地がございます。企業用地の必要性の精査とか、それから住宅の規制についての解消策であったり、さらには私の五葉上跡という場所が大変、大原調整池の上をずっと登って五葉上跡まで登った、あの場所からのパノラマ景観が素晴らしいもんですから、そういう観光にも来てもらえる自然豊かな場所であるというふうに思っております。そうしたことも含めまして、関係地区の皆様振興策の策定委員会のようなものを作って、スマートインター供用に向けての八名地区、八名地区のみならず、市全域に波及効果がでるような振興策の検討をしながら考えていきたいというふうに思っております。大変豊橋と隣接しますので、新城市だけで考えるのではなくって、豊橋市とも連携しながら、豊橋市のインターチェンジ供用後に向けての取り組みも情報共有しながら、お互いが良い方向に行くように進めていくことが必要であるというふうに思っております。

○司会 それでは時間が参りましたので、討論を終了させていただきます。それでは最後の設問です。今回の討論全体を振り返って、討論内容の補足、反論、感想などを発言いただきます。再度順番を入れ替えまして白井さんから順にお願い致します。時間は3分です。白井さんお願いします。

○白井倫啓氏 はい、長い時間今日もお聞きしていただきました市民の皆さん本当にありがとうございます。今日の産業政策っていうのは、非常に幅が広くて、なかなか噛み合

わないところも多くて、いろんな議論になっていなかったのかもしれませんが、産業政策、観光、これ本当に新城市にとって重要ですし、下江さんがA級観光地じゃないとか言われたんですが、A級観光地になる可能性が新城市にはあるんですね。自然景観ありますし、長篠の戦いを含めた歴史資源っていうのは1級ですね。これを広げていくっていうことがこれから必要になってくると思いますし、この資源を活かせば新城地域、多くの皆さんが関わる事業になってきますので、是非歴史というものを皆さんと共に活かしていきたいというふうに思います。今日なかなか議論が深まらなかった、エネルギーの問題も可能性が地域に出ています。議論の中でもお話しさせていただきましたんですが、エネルギー自治というのがこれから大事になってきます。自分の使う電気、どのように使っていくのか、どこの電気を使うのか。ここの意識がみなさんで共有できれば、新城市で自前の電気をいろんなところから作るっていうことの可能性が出てくると思いますので、お金もそこから作り、職場も作っていけるというふうに思いますし、森林農業盛んに話をさせてもらったんですが、諦めない地域づくりという点で、森から産業を起こし、雇用を作り、経済を回す。農業も何を多くの人たち、都会の人たち、新城を選んでもらえるような情報発信ができるのか、これを進めていくことができれば、農業林業においても先進地域になり、いろんなところから視察も来て、注目されて多くの若者が新城を目指してくれるのではないかとというふうに思います。今総務省では、地域おこし協力隊という制度もあります。地域おこし協力隊というのは、総務省が3年間賃金保証してくれますので、その地域おこし協力隊の皆さんの思いと新城市のこれから行なっていくまちづくりの思いと一致することができれば、多くの若者のみなさんが若者地域おこし協力隊として、協力してくれるって言う事が現実になると思います。

○司会 次に、下江さんお願いします。

○下江洋行氏 今日も2時間近くの間この公開政策討論会第2回ということでありませけれども、視聴して下さいました皆さん本当にありがとうございます。お疲れ様です。白井さんとの議論を通じて、この新城市の地域資源であります、森林資源でありますとか、また農地、さらには観光資源はこれをしっかりと生かした、産業政策が必要だという、この点では基本は一致しておりますし、共有できているというふうに思いますけれども、農業全体の中でやはり白井さんは有機農業ということ強く打ち出されておりますけれども、それは私も議論の中でお伝えした通り、その大切さっていうのは尊重したいと思っておりますけれども、やはり全体構造の中で農業政策っていうのを考えていくうえで、やはりそのみを強調した議論になってしまうのは、農業政策全般の話にはならないのかなというふうに思いました。そして時間の関係で、観光のところ、1次産業とは3次産業の話はできたんですけども、この新城市のなんといっても市内の製造業、そして工業建設業のを閉めるこのウエイトってのは大変大きいものですから、その政策に対する政策の重要性、例えば製造業企業であれば、企業立地支援であったり、それからの雇用促進の支援であったりとか、そうしたの産業政策の考え方も確認できれば良かったのかなというふうに思いました。いずれにしても、産業第一産業から第三次産業まで大変幅広い分野でありますので、それぞれの分野におきまして産業界の多数を占める皆様方の理解と協力が得られ、またそうした方の安心に繋がるような産業政策っていうのを全体最適を考えて、行政は取り組んでいかなければならないというふうに思います。これからのデジタル化と脱炭素、この二つがこれからの社会の大きなテーマになっていくと思いますので、事業経営、企業はもちろんそれから、産業政策をサポートす

る市の政策、こうしたことも今後は、今まで以上にまた別次元の政策取り組みが求められる時代になってくると思います。それに対応できるような行政運営これが必要だと思います。

○司会 これで本日の討論会は終了となります。長時間にわたり御視聴いただいた皆様また立候補予定者のお二人もありがとうございました。3回に渡って開催する公開政策討論会。次回は14日木曜日の午後7時から開催を予定しています。テーマは人口減少と少子高齢化に負けないまちづくり（人口政策）です。本日と同様にティーズの生放送、YouTubeと新城市のホームページにて生配信を行います。なお本日公開政策討論会の様子もティーズにて、10月21日午後7時から再放送を予定しております。またYouTubeの新城市公式チャンネル、または新城市のホームページから引き続き御覧いただけます。見逃した聞き逃したという部分がある場合には、これらを再度御覧ください。また次回テーマに関する政策シートを開催日前日の市のホームページに掲載します。また市役所本庁舎各総合支所に紙媒体も用意いたします。市民の皆様はそれを持参し、次回の討論会を御覧ください。以上で本日の公開政策討論会は閉会となりますまた14日午後7時にお会いしましょう。